



筒井俊秋議員

Q. 空港一元化に対する町の対処は

A. 空港一元化は容認できない

**Q** 5年前名古屋空港は、国際線をはじめ就航路線の機能を移転し、コミューター機や国際ビジネス機の拠点とする条件で、中部空港とすみわけた。これは地元自治体2市1町が同意した条件であったと理解している。しかし国際線・国内線の一元化が必要と

の発言が財界人から相次いでいる状況は理解し難い。町はどのように対処するか。

町長も最近テレビで発言しているように、航空関連の税収入は、町の税収入の約20%を占めている。万が一、空港一元化が実現することになれば、日本航空と同じく豊山町財政も破綻する懸念が生じるので、絶対に容認することはできない。また、それに伴い、民間機がなくなればまるごと基地化につながり、航空自衛隊小牧基地の拡大が懸念される。

**A** 中部国際空港開港時には、一都市二空港を前提に、中部国際空港は国際拠点空港として、県営名古屋空港はコミューター航空あるいは国際ビジネス機などの小型機の拠点空港として、それぞれの役割分担を果たしていくことが確認されている。この名古屋空港と中部国際空港との空港機能のすみ分けを前提に、町として、中部国際空港開港に理解を示した

経緯がある。  
また、県営名古屋空港は、本町にとって中核をなす施設である。中部国際空港の需要低迷に端を発した中部経済界からの空港一元化論は、県営名古屋空港の地元自治体で

ある本町にとって、到底容認できるものではなく、これまでどおり県営名古屋空港と中部国際空港が共存共栄を図っていくことが肝要であると考えている。



豊山町の中核である名古屋空港